

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン西山 1ユニットめ		
所在地	長崎県長崎市西山1-2-7		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果確定日	令和3年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設外に出るのは必要最低限(病院受診等)に控えている為、施設内で出来る行事(映画鑑賞会、レクリエーション大会、おやつ作り等)の回数を増やしています。また、面会の制限もあったためご家族様には玄関先に写真を飾ったり、広報誌を作成・配布、公式Facebookにて配信する事で日頃の様子をお伝えしている。3/11にはオンライン面会が出来る様になった為、積極的に活用していきたい。
母体の病院との連絡は24時間体制で取れる為、入居者様の熱発、体調不良時には随時連絡を取っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4270102777-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年4月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山の中腹にある住宅地に建っており、事業所からは広く長崎市街を見渡すことができる。3ユニットは各階に1ユニットずつの配置となっており、各ユニットとも、職員や入居者様で手作りした季節の飾りや写真の掲示等により、それぞれの特色が有りながら、ゆったりとした家庭的な雰囲気となっている。特徴的な取り組みとして、理事長やホーム長、管理者を含めて職員の個別面談「能力開発面談」を年3回実施しており、個別面談用の評価シートを用いながら職員の1年間の個別目標や進捗状況の確認を行い、職員と理事長等との直接の対話する機会にもなっている。また、新型コロナウイルスの流行により入居者様の外出制限が一年間ほど続く中、事業所内でスクリーンを使用した映画鑑賞会や季節の食事会など様々な行事を積極的に企画し、入居者様が日々を楽しむことができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「楽しく！優しく！元気よく！」を職員ひとりひとりが心掛け、実践に繋げている。	社会福祉法人の理念「Cool Life Together めざせ110歳」は一昨年「Cool Life Together めざせ100歳」から時代背景を受け変更している。また、事業所の理念「楽しく！優しく！元気よく！」は事務所に掲示し、月に1度の職員研修の際に管理者から理念に関わる話を行い職員へ周知している。	社会福祉法人の理念はパンフレットに記載されているが、事業所の理念は明文化されていないので、今後は明文化した書類を職員に配布するなどして、新人職員を中心とした職員への周知を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流の機会は減っていますが、自治会主催の作品展や年末の夜警、精霊流しなどに参加させて頂いています。	新型コロナウイルスの流行前は精霊流しや夜警、自治会主催の作品展に参加するなど、自治体の活動に積極的に参加していたが、コロナウイルスの影響により今年度は参加ができていない状況である。行事の参加の有無や連絡事項等、互いに事務的なやり取りを行っており、制限がある中でも地域とのつながりは保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「コロナ禍でも発信できる事はある！」と職員には伝えていきます。法人の公式facebookや広報誌、施設内掲示を通して発信しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は対面式ではなく文書のやり取りに留まっているが、フロアや委員会、西山としての活動を伝えられる様に努めている。	運営推進会議は偶数月に開催し、今年度は6回実施している。今年度は新型コロナウイルスによる外部との接触制限のため、運営推進会議は事業所職員のみで行い、会議録は地域包括支援センターと自治会長に配布している。また、法人内の医療連携で看護師が参加し、熱中症等について医療の視点から意見をもらうこともある。	運営推進会議への家族の参加を促す取り組みとして、現在は事業所内に運営推進会議開催のチラシを掲示しているが、今後、よりご家族へ事業所の取り組みを知ってもらうために、毎月の請求書と同封という形で、運営推進会議録を家族へ郵送することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に情報提供を行いながら、包括や市役所の担当職員と協力関係を築いていくよう取り組んでいる。	長崎市と文書のやり取りや行政報告をする際に対応する担当の市職員がおり、内容によって生活保護(西山地区)担当職員、福祉総務課、介護保険課と主に連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待防止委員会兼身体拘束適正化委員会を中心に弊害を伝えるだけでなく、職員が主体となり防止に対する啓発を行っています。	玄関は1階が自動ドアとなっており、朝5時半頃に解錠し、夜20時に施錠している。基本的に身体拘束をしない支援を行っており、入居時には「入居時リスク説明書」を契約書と共に作成し、身体拘束をしない旨と、そのリスクについてご家族に文書で同意をとっている。年に1度、身体拘束の研修の一環として標語を職員へ募集し、理事長が優秀作品を選ぶ活動を行っており、今年で3年目とのことである。一人4～5個考える職員が多いとのことである。職員が自ら身体拘束や虐待等、日々のケアを見つめ直すいい機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止委員会兼身体拘束適正化委員会を中心に毎月会議を行い、啓発活動を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内でも成年後見人制度を利用されている入居者様もいる。また、研修を受けている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや契約書、重要事項説明書等を用いて管理者が説明している。不安や疑問についてはいつでも相談できる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を配置し、意見や要望を気軽に伝えられる環境作りに努めている。	玄関に意見箱を設置し、管理者が出勤時に確認している。意見箱への投書は少なく、昨年6月に来客用スリッパの交換を求める意見が1件出たのみで、すぐに交換対応している。意見箱以外の連絡ツールの一つとして事業所でタブレット端末を購入し、事業所のラインアカウントを作成したことにより、ご家族と気軽にオンライン面会ができるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアの意見や要望はフロア会議の際に管理者を交えて話し合いをしている。その他の場合はリーダーより管理者に提案している。	シフトの作成時に休日や勤務体制の希望を職員から聞き、ほぼ希望通りに勤務を組んでいる。また、職員の家庭の事情を配慮した勤務体制も管理者、理事長と相談の上で対応している。また、年に3回、理事長も含めた職員の個別面談として「能力開発面談」を実施しており、職員個別の1年の目標や進捗状況について確認する機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階に計画作成担当者を配置しリーダー業務も行っていましたが、職員ひとりにかかる負担が大きかった。令和2年より職員1人1人に担当を作り実施してもらうように変更した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて定期的に研修が行われている。外部の研修については積極的に参加を促し、施設で受けられる様にオンラインの支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会に入っており、研修会を通じ情報交換を行っている。また、オンラインで合同の会議や研修を行い質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各入居者様に職員1月を担当として配置することで責任感を持ってより深く関わる事が出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者前後には御家族様と情報を共有し、思っている事や感じている事を受け止め、信頼関係が出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や情報を見て、初期に必要なとするケアを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒にゆっくりとお話する時間を設け、お互いに信頼関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒にゆっくりと過ごすことが出来る様に配慮し、また、日頃の入居者様の様子もお伝えし相談しながら一緒に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は制限していたが、電話や手紙等でやり取りを続けている。3月11日にはオンライン面会の設備が揃ったのでご家族様に案内をしています。	新型コロナウイルスの影響によりご家族との面会を昨年3月より制限していたが、今年3月より県内のご家族に限り、検温、マスク着用、アンケート記入等の条件付きで各階ロビーでの面会のみ再開している。県外や海外のご家族とはオンライン面会や電話、手紙等で交流をしている。また、地域住民であり他市町村で美容院を経営している方に訪問美容(散髪)を依頼し、定期的に来所していただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係に配慮し、レクリエーションや家事手伝いを行い交流を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に相談して頂ける様に言葉掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、希望や意向を汲み取っている。困難な場合にはご家族様の協力を頂き、ケアに繋げている。	できるだけ入居者様へ意向を聞くようにし、買い物に行きたい、海を見たい等外出に関する要望が多く挙がってくるとのことである。その希望をもとに、海が見える場所までドライブに行ったり、買い物に出かけているとのことである。新型コロナウイルスの影響で、外出の制限が出ていたが、最近は少し暖かくなり、気分転換も兼ねて、ユニットごとで外出ができているとのことである。もし入居者様が言葉が出にくい等の場合には、ご家族等へ聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報には十分配慮をしながら、入居者基本情報やご本人から聞き取りするなど情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月フロア会議を開催し、各入居者様の様子を報告し合い、現状の把握と共に今後のケアや方向性を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>西山では担当制を設けている。担当者はモニタリングやアセスメント、意向を聞き取る。また、ユニット職員全員の意見交換を行い、ケアプランを作成している。</p>	<p>同じ法人の中でホーム長が就任したことを契機に、ホーム長が所属しているグループホームと同じ介護計画書等の様式を使用することとなり、新しい様式への転換期となっている。3か月めの評価(モニタリング)までは、ケアマネージャーが作成をしているが、それ以降は、担当の職員がアセスメントとモニタリングを行い、サービス担当者会議の前にもユニット以外の職員からの意見を集めるなど、職員全員で入居者様の支援にあたっている。家に帰りたいと訴えが強い入居者様へは、帰るとの訴えの際には、職員がとことんつきあう等の対応をしていたが、職員間で、その方が何か集中できるものがないか探っていたところ、歌の本を渡すと集中したり、勉強が好きな為、問題集を渡すと集中するということが分かり、家へ帰りたいという訴えが少しずつ落ち着いてきているとのことである。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人カルテや業務日誌に日々の様子を記録している。職員間の情報共有に努め、今後のケアプラン見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>御本人様や御家族様の要望については管理者と話し合いながら柔軟な支援が出来る様に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の展示会や精霊流しなどに参加し交流の場を設け、入居者にも楽しんで頂ける様にしている。また、くunchやランタンフェスティバル等はテレビで鑑賞しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察や週1回の外来受診を行っている。体調の変化あれば主治医に相談・連携を図り、対応している。また、専門医の受診にはご家族様の協力を得ながら対応している。	母体が病院である為、内科に関しては入居時に往診ができる母体の病院へのかかりつけ医への変更をごへ説明をし、ほとんどの方がかかりつけ医を変更している。内科以外は、ご家族や職員が付き添って病院受診をしている。母体の病院とは、24時間電話での対応が可能であり、急を要さない場合には、電話で問い合わせをし、判断を仰いでいる。新型コロナウイルス流行前までは、ご家族と病院受診をした後に外食をして帰ってきている入居者様がいたが、コロナ禍のため、現在は病院受診をしてそのまま事業所へ帰ってきてもらうようご家族へお願いをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や退院後指導にて訪問する看護師へ体調の変化などの情報を報告・相談し適切な対応が取れる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には送り表や退院サマリーにて医療機関と入居者様の情報交換ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて医師から病状説明を行い、御家族様と話し合いながら当事業所として出来る事、出来ない事を理解して頂き、職員は情報共有しながら支援している。	入居の際に、重要事項説明書の補足で、重度化した場合の対応に係る指針を説明している。事業所ではターミナルケアを実施しておらず、終末期が近いという判断をかかりつけ医がした場合、医師からご家族へ説明をし、母体の病院やその他希望する場所への転居先を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会が中心となり、定期的に応急手当や初期対応の訓練を行い、各階職員へ周知徹底に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	委員会が中心となり、定期的避難訓練を行う事で職員の意識向上に努めている。	火災、地震、土砂災害を想定した訓練を実施している。新型コロナウイルス流行前までは、消防署や長崎市役所の職員が立ち会い、訓練を実施していたが、コロナ禍の現在では職員、入居者様のみでの実施となっている。居室内へ冷蔵庫やテレビを持ち込んで入居者様もいるので、火災予防としてコンセントまわりをこまめに掃除するようにしている。また、昨年は台風で停電を経験し、屋上の発電機で入居者様が支障がない程度で、電気は使用できたが、食材がだめになったとのことである。その経験を踏まえ、各ユニットにおいて台風等の前々日から準備する事項のチェックリストを作成したとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その方に合った言葉掛けを行っている。個人情報に関しては外部に漏れる事が無い様に十分に配慮している。	全職員へ言葉使いについてのアンケートを年1回実施している。その結果を委員会で話し合い、入居者様の繰り返しの訴えに対し、苛立ちを感じる職員が数名いたとの結果を受け、その場合他の職員と交代をする対応をするということになった。また、職員の言葉遣いで気になる場合には、ユニットリーダーが注意をし、それでも効果がない場合には、管理者が注意をするという流れとなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中からその方の思いを知り、出来る限り希望に添える様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思を尊重し、日々を楽しく暮らせる様に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容で散髪や染髪をして頂き、身だしなみを整えている。また、季節に合った洋服を選んで頂き、合っていない時には自尊心を傷つけないように指摘している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様には食事の下ごしらえ、盛り付け等をお願いしている。	献立作成と、食材の発注は法人内の管理栄養士が行っている。事業所では食材の受け取りと、調理を行い、入居者様の中で手伝いができる方は、もやしのひげ取り、ごますり、食器洗い等をお願いしている。刻み食とミキサー食も対応している。入居者様から食べたいメニューの希望があれば、管理栄養士へ相談をし、取り入れることができるよう配慮している。先日は、焼き肉の希望があり、ホットプレートを使って希望を叶えられたとのことであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量の記録を行い、また、水分を摂取しやすい様に水筒を持つ方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方が多いが、職員が見守りや確認に入り、清潔保持に努めている。また、歯科医による定期的な口腔ケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様ひとりひとりに合った排泄支援を行っています。夜間帯はオムツで対応している方も日中は極力トイレに座って頂くように配慮しています。	日中はできるだけトイレへ誘導し、リハビリパンツか布パンツを使用し、夜間はテープのオムツを使用している方もいるとのことである。全ての居室にトイレが設置されており、トイレがベットから近く、柵などをつたって移動ができています。入居前は、テープのオムツを使用していた入居者様も、入居してからほとんどの方がリハビリパンツへ移行できているとのことである。	排泄があった方はユニットごとの業務日誌に記録をしている。しかし、その業務日誌だけでは、誰が何日排泄されていないのか、分かりづらい状況である。現在、下剤を処方されている方もいるとのこと、排泄コントロールが必要な方だけでも、どの職員が見ても一目でわかるよう、排泄チェック表を作成することを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と食事摂取量、排便間隔を確認し、滞る場合には医療機関との連携を取り、適切な対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は1日おきに定めている。ご本人の意思に応じたタイミングで声掛けし、入浴して頂いている。入浴できなかった方は別日に他フロアで対応する事も出来る。	週3回入浴ができるようしている。入浴日は入浴介助担当の職員が1人で1ユニットの全入居者様の一連の入浴介護を行っているが、入居者様の状態によっては、2人で介助をすることもあるとのことである。前日に入居者様と入浴の準備をすることで、入浴意欲がわくという効果もあるとのことである。どうしても入浴をしたくないという方は、声かけを工夫したり、羞恥心を配慮した個別対応をすることもある。病院での入浴のみ納得して受け入れられる入居者様については、ご家族や母体の病院と相談をし、母体の病院へ入院をして、入浴をしてもらうこともあるとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の目安はありますが、皆様ホールや居室にて自由に過ごしておられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬を処方時は処方箋と照らし合わせて確認している。体調に変化があった場合には医療機関や薬局と連携しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々が役割(洗濯物干し、畳み)を持って頂く事で、意欲的な生活を送れる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行前:買い物の希望と日程を調整し、外出支援を行っていた。また、ピクニックやドライブ等も毎月計画し、ご家族様も一緒に参加できる様に支援している。	新型コロナウイルス流行前は、年2回家族も合流をして、お弁当を持参し、ピクニックへ行っていたが、コロナ禍の為実施ができていない。外出制限が続いていたが、少し暖かくなってきたため、ユニットごとで最近は少しづつドライブに出かけているとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理や嗜好品の購入はご家族様をお願いしている。数名自己管理をしている方もいらっしゃいますが、使用する際には職員と共に確認しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやりとりがいつでもできる様に支援している。また、投函も職員が支援している。ご家族から届いたものは職員と一緒に閲覧しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽を掛けたり、窓から日光を取り入れるなど居心地の良い環境作りを行っている。また、室内温度や湿度には気を配り、その都度調整を行っている。	日中、ほとんどの入居者様は共用部分で過ごし、それぞれ居心地が良い場所できつろいでいる。最近、共用部分の畳を張り替えて、そこで寝転ぶ方もいるとのことである。各ユニット、加湿器を2台置いており、乾燥しないよう気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士気の合う方もおり、ホールで楽しく過ごしてもらえる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた家具や必要な品を準備する事で、安心して過ごせる居室となっている。	入居前の使い慣れた物を持参しており、居室内も整理整頓がされていた。大きいハンガーラックを持ち込んでいる入居者様もあり、万が一の場合を考え、ハンガーラックのカーテン部分を防災に替えてもらったとのことである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっている。歩行が不安定な方には手すりを持つようにお声掛けし、職員が見守りをする様に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン西山 2ユニットめ		
所在地	長崎県長崎市西山1-2-7		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果確定日	令和3年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設外に出るのは必要最低限(病院受診等)に控えている為、施設内で出来る行事(映画鑑賞会、レクリエーション大会、おやつ作り等)の回数を増やしています。また、面会の制限もあったためご家族様には玄関先に写真を飾ったり、広報誌を作成・配布、公式Facebookにて配信する事で日頃の様子をお伝えしている。3/11にはオンライン面会が出来る様になった為、積極的に活用していきたい。
母体の病院との連絡は24時間体制で取れる為、入居者様の熱発、体調不良時には随時連絡を取っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvosvoCd=4270102777-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年4月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「楽しく！優しく！元気よく！」を職員ひとりひとりが心掛け、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な運営推進会議の開催や自治会の活動にも参加し、交流を図っていたが、コロナ禍でもあり交流の機会は減っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「コロナ禍でも発信できる事はある！」と職員には伝えていきます。法人の公式facebookや広報誌、施設内掲示を通して発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は対面式ではなく文書のやり取りに留まっているが、フロアや委員会、西山としての活動を伝えられる様に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に情報提供を行いながら、包括や市役所の担当職員と協力関係を築いていくよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待防止委員会兼身体拘束適正化委員会を中心に定期的な会議や勉強会を行い、職員の意見交換しながら職員ひとりひとりの意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止委員会兼身体拘束適正化委員会を中心に様々な事例を持ち出して勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内でも成年後見人制度を利用されている入居者様もいる。また、研修を受けている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや契約書、重要事項説明書等を用いて管理者が説明している。不安や疑問についてはいつでも相談できる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を配置し、意見や要望を気軽に伝えられる環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアの意見や要望はフロア会議に際に管理者を交えて話し合いをしている。その他の場合はリーダーより管理者に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発シートにより年間目標を設定し、講師、代表者、管理者を交えて面談し、評価を行いながら向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて定期的に研修が行われている。外部の研修については積極的に参加を促し、施設で受けられる様にオンラインの支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会に入っており、研修会を通じ情報交換を行っている。また、オンラインで合同の会議や研修を行い質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話の中から思いを汲み取り、職員で共有し、不安なく安心して生活出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から要望や意向を伺う事でケアプランに反映することが出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談を行っている。事前の情報収集や本人の意向を伺う事で、必要なケアをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々が役割分担を決める事で、意欲的な生活を送って頂ける様に環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常の様子をお伝えし情報共有している。また要望もお伺いし本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活習慣や友人との関係性の継続に努めている。(電話や手紙、面会等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に配慮しながら、レクリエーションや家事手伝い等を通して関わり合いを持って頂ける様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に相談して頂ける様に言葉掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、希望や意向を汲み取っている。困難な場合にはご家族様の協力を頂き、ケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報には十分配慮をしながら、入居者基本情報やご本人から聞き取りするなど情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化があれば、職員全員で情報を共有し医療機関との連携を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	西山では担当制を設けている。担当者はモニタリングやアセスメント、意向を聞き取る。また、ユニット職員全員の意見交換を行い、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、個人カルテに日々の様子を記録することにより、職員間の情報を共有に努め、今後のケアプラン見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様の要望については管理者と話し合いながら柔軟な支援が出来る様に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の展示会や精霊流しなどに参加し交流の場を設け、入居者にも楽しんで頂ける様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察や週1回の外来受診を行っている。体調の変化あれば主治医に相談・連携を図り、対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や退院後指導にて体調の変化などの情報を報告・相談し適切な対応が取れる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には送り表や退院サマリーにて医療機関と入居者様の情報交換ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて医師から病状説明を行い、御家族様と話し合いながら当事業所として出来る事、出来ない事を理解して頂き、職員は情報共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会が中心となり、定期的に応急手当や初期対応の訓練を行い、各階職員へ周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	委員会が中心となり、定期的に避難訓練を行う事で職員の意識向上に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その方に合った言葉掛けを行っている。個人情報に関しては外部に漏れる事が無い様に十分に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中からその方の思いを知り、出来る限り希望に添える様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思を尊重し、日々を楽しく暮らせる様に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容で散髪や染髪をして頂き、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様には役割を持って頂き、献立によっては職員と一緒に準備や盛り付けをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い、食事の摂取状況によっては介助も行っている。また、テーブルにお茶を準備する事で水分摂取できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の能力に応じて、介助が必要な方には職員が口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、歯科医による定期的な口腔ケアも行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄間隔を記録する事で、職員全員で把握し、誘導支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と食事摂取量を把握した上で、排便状況を確認し、便秘予防に努めている。便の状態によっては医療機関との連携を取りながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはご本人の体調管理を行い、意思に応じたタイミングで入浴して頂いている。前日にはご本人と一緒に入浴準備を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごして頂いているが、長時間休まれている際にはお声掛けし、メリハリを付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬を処方時は処方箋と照らし合わせて確認している。体調に変化があった場合には医療機関や薬局と連携しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々が役割を持って頂く事で、意欲的な生活を送る事ができ、楽しみのある生活が送れる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行前：買い物の希望と日程を調整し、外出支援を行っていた。また、ピクニックやドライブ等も毎月計画し、ご家族様も一緒に参加できる様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理や嗜好品の購入はご家族様をお願いしている。数名自己管理をしている方もいらっしゃいますが、使用する際には職員と共に確認しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば電話や手紙のやり取りがいつでもできる様に支援している。また、投函も職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂ける様に室内の温度を配慮したり、ホール内に障害物になるようなものを置かない等、安全面にも配慮している。また、ホール内には季節に合った飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ、畳などがあるが、入居者様自身が過ごしたいところで過ごしてもらえる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた家具や必要な品を準備する事で、安心して過ごせる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっている。歩行が不安定な方には手すりを持つようにお声掛けし、職員が見守りをする様に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン西山 3ユニットめ		
所在地	長崎県長崎市西山1-2-7		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果確定日	令和3年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設外に出るのは必要最低限(病院受診等)に控えている為、施設内で出来る行事(映画鑑賞会、レクリエーション大会、おやつ作り等)の回数を増やしています。また、面会の制限もあったためご家族様には玄関先に写真を飾ったり、広報誌を作成・配布、公式Facebookにて配信する事で日頃の様子をお伝えしている。3/11にはオンライン面会が出来る様になった為、積極的に活用していきたい。
母体の病院との連絡は24時間体制で取れる為、入居者様の熱発、体調不良時には随時連絡を取っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvosvoCd=4270102777-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和3年4月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「楽しく！優しく！元気よく！」を日々のケアにもつなげ、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での交流や自治会の活動にも参加してきましたが、コロナ禍でもあり交流の機会は減っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「コロナ禍でも発信できる事はある！」と職員には伝えていきます。法人の公式facebookや広報誌、施設内掲示を通して発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は対面式ではなく文書のやり取りに留まっているが、フロアや委員会、西山としての活動を伝えられる様に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターからの参加もあり、会議を通じて情報を伝え、協力関係を築いていくように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待防止委員会兼身体拘束適正化委員会として活動しており、意見を交換しながら職員全体の意識統一に努め、身体拘束等をしないようにケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止委員会兼身体拘束適正化委員会とし様々な事例を持ち出しながら、虐待のないケアを職員も意識し、ケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて知識を得ている職員もいる。事業所内でも成年後見人制度を利用されている入居者様も在籍している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや契約書、重要事項説明書等を用いて管理者が説明し、理解を図っている。また、玄関先にも掲示し、いつでも見れる環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様：玄関に意見箱を配置、職員が聞いた要望や意見は出来る限り反映している。 入居者様：意見や要望には耳を傾けレクリエーションや食事メニューに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアの意見や要望はフロア会議に際に管理者を交えて話し合いをしている。その他の場合はリーダーより管理者に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発シートにより年間目標を設定し、講師、代表者、管理者を交えて面談し、評価を行いながら向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて定期的に研修が行われている。外部の研修については積極的に参加を促し、施設で受けられる様にオンラインの支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会に入っており、研修会を通じ情報交換を行っている。また、オンラインで合同の会議や研修を行い質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談し、ご本人様とお話をしながら安心して生活が出来る環境になる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後には御家族様と情報を共有し、思っている事や感じている事を受け止め、信頼関係が出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や情報を見て、初期に必要なとするケアを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒にゆっくりとお話する時間を設け、お互いに信頼関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒にゆっくりと過ごすことが出来る様に配慮し、また、日頃の入居者様の様子もお伝えし相談しながら一緒に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話があった際には取り次ぎ、馴染みの関係性が途切れない様に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係に配慮し、レクリエーションや家事手伝い等を通じて協力しながら、お互いに認め合えるような環境を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはいつでも連絡して頂けるように言葉を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃よりコミュニケーションを図り、希望や思いを聞き、入居者様の意向に沿った生活になる様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、ご本人様や御家族様にもお話を聞きして情報を収集し、各職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテに毎日の様子を記録しており、気付いた事や変化があった場合は全職員で共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直しの際には全職員の意見を収集し、意見を反映できる様に気掛けながらケア会議を開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテの記録は介護計画に基づいて記入しており、変化があった際には情報を共有し、今後の介護計画見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様の要望については管理者と話し合いながら柔軟な支援が出来る様に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や自治会の協力の元、入居者の理解を得て交流の場がある時は参加し、入居者様が安心・安全に暮らせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院がかかりつけ医となり、月2回の訪問診察や外来受診を行っている。体調や様子に異常が見られた際には連携を図り、対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や退院後指導にて体調の変化などの情報を報告・相談し適切な対応が取れる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には送り表にて入居者様の情報交換を行い、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて医師から病状説明を行い、御家族様と話し合いながら当事業所として出来る事、出来ない事を理解して頂き、職員は情報共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会が中心となり、定期的に心肺蘇生やAEDの使用法の研修を行っている。事故発生時には各階職員の連携を図り、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の自主防災組織の一員として有事には一時避難所としての登録をしている。また、防災委員会を中心として定期的に火災訓練や点検を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉掛けや対応を行っている。また、プライバシーに関わることは十分に気を付けて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりコミュニケーションを大切にし、ご本人様の思いを聞き取れるように努めている。信頼関係を築き気軽に相談できる様な環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活ペースを大切にし、希望する事があれば優先し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前には一緒に準備を行い、好みの洋服を選んで頂いている。また、化粧品を使用する方もおりその方にあった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日1日の献立を掲示する事で食事を楽しみにされている。また、テーブル拭きや配膳と一緒にやっている。献立によってはホットプレートを使用して入居者様と共に調理を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録し、水分補給についても言葉掛けを行い、確認している。また、その方に応じた食事形態にて提供し、バランスよく召し上がって頂ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはその方の能力に応じて、言葉掛けや見守り、介助を行っています。また、訪問歯科による定期的な口腔ケアも行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとの排泄誘導及び排泄訴え時にはトイレ介助を行い、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様の様子や排便状況を確認し、便秘や下痢が見られる際には医療機関に連絡・相談し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はフロア毎に違うため、希望するといつでも入浴できる様になっている。また、入浴時も好みのシャンプー等を使用し、ゆっくりと入浴できる様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の様子を見ながら昼間の休息を設けている方もいるが、夜間の安眠の為、短時間の休息となる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬を処方して頂いた際には処方箋と照らし合わせて確認している。服薬は口元へ介助を行い、確実に服薬できる様に支援している。体調に変化があった場合には薬情報を確認し、医療機関や薬局と連携しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いやその方に合った得意なことを提案し、役割や楽しみになる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行前：買い物の希望と日程を調整し、外出支援を行っていた。また、ピクニックやドライブ等も毎月計画し、ご家族様も一緒に参加できる様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを自分で管理している方もおり、買い物の際には財布からご自分で支払って頂いている。レシートやお釣りの受取りもお願いし確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればいつでも電話を掛けている。また、年賀状や暑中見舞い等にもご本人様から一言書いて頂き、投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや畳にてゆっくりと過ごせる様に不要なものは置かず、心地よい空間になる様に気掛けている。また、室温や換気にも気を使っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごす場所は決まっておらず、ソファにて気の合う方と話をしたり、畳の上で読書や日向ぼっこしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様よりご本人様の好みの家具や必要な品を持ち込んで頂き、その方に合った居室空間となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時より居室変更は行わないため、ご自分の居室の位置は把握されている。また、場所が理解出来ない方には目印となるように案内を掲示することでスムーズな行動に繋がっている。		